

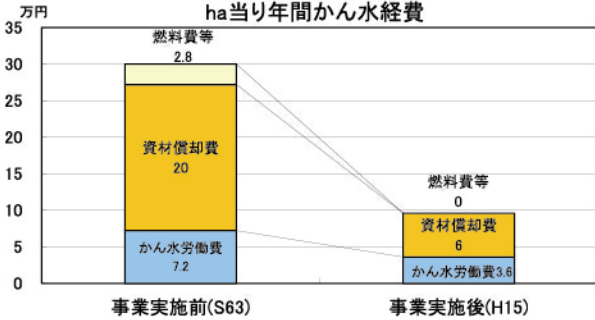
3)農業農村整備事業の効果

[1]かんがいの効果

かんがい排水事業の実施により、安定した農業用水が供給され作物の品質が向上し、生産物の価格が上昇するとともに農業の多角化が図られ、土地生産性の向上に寄与している。また、事業実施以降、主に以下のような効果が得られた。

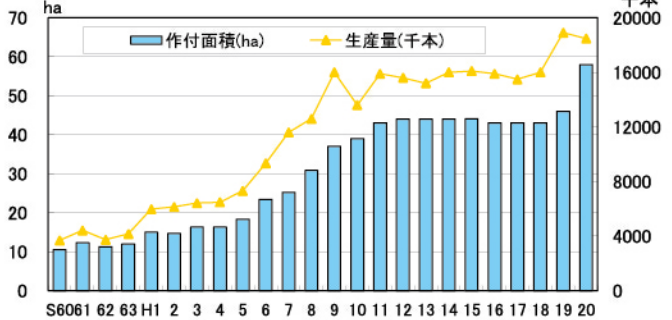
①かん水作業の効率化・経費の節減

(恩納村喜瀬武原地区)



②生産量の拡大(恩納村)

キクの作付面積と生産量の推移



[2]区画整理の効果

区画整理により、農地の集団化が促進され計画的な土地利用と農作業の機械化が可能となり、農業労働時間の短縮をはじめとして労働生産性の向上が図られている。

主な事業効果として以下のようなことが挙げられる。

①労働時間の減少(宮古島市下北地区)



手刈りによる収穫作業

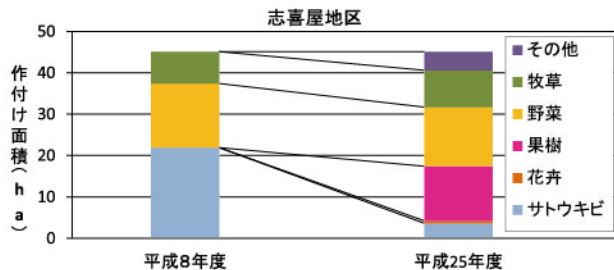


ハーベスタの収穫作業

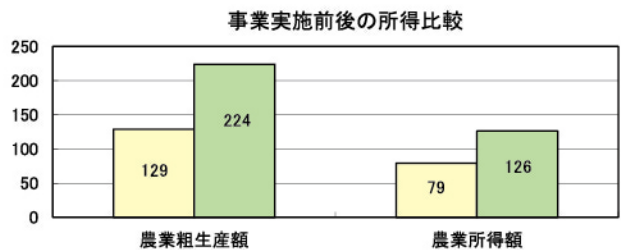
当該地区の主要作物であるさとうきびの労働時間をみると、事業実施前の1,885時間から実施後は約66%減の635時間へと大幅に減少した。

[3]かんがい及び区画整理の相乗効果

①作物別面積の転換(南城市志喜屋地区)



②農業所得の向上(宮古島市下北地区)



生産基盤整備後は、事業実施前に作付されていたさとうきび・牧草・野菜に加え、高収益作物である果樹や施設栽培による集約的な農業経営が行われている。

事業実施前に比べ実施後は、10 aあたりの農業粗生産額が70%、農業所得が50%向上した。